

2024年4月28日（日）第二礼拝「神様の臨在の喜び」ルカ 24章 34～43節

臨在は、神様が私たちと共におられること(インマヌエル)を意味します。神様が共におられる時、臨在の喜びが私たちのうちで溢れます。

第一番目、神様を信じる人々はどのように神様がいないかのように生きているのでしょうか？神様を信じると言いながら喜びがなく、恐れと心配で満ちた生活をしています。それは、神様の臨在を信じないからです。イエス様はよみがえられて弟子たちに会いました。シモンやエマオに下っていた弟子たちに、また彼らが集まっている場所にも、イエス様は現れました。しかし、彼らはよみがえったイエス様を見て驚き恐れ、霊を見ているのだと疑い、取り乱しました。イエス様は御言葉通りによみがえりましたが、御言葉を信じなかった弟子たちは恐れや疑いが生じました。そんな彼らにイエス様は「わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。…霊ならこんな肉や骨はありません。」と言って、焼いた魚を召し上がり、生きていることを証明されました。確かにイエス様は今も生きておられるのです。

第二番目、イエス様が私たちのうちで霊的な感覚になるためには、聖霊を受ける必要があります。御言葉と聖霊によって私たちの霊は生まれ変わります。イエス様は戸の外に立って叩き、私たちと共に食事をし、共に生活をしてくださいます(黙示録 3:20)。このイエス様を私たちが信仰の目で見るとするには聖霊を受ける必要があります。私たちが聖霊を受ける時、生活全てが聖霊の感覚、イエス様の感覚となっていきます。人間は蛇に騙されてエデンの園での霊的な感覚を失ってしまいましたが、イエス様の十字架を通して罪赦され、聖霊によってその霊的感覚を取り戻すことができました。あるアルコール中毒者は聖霊を受けてからお酒が飲めなくなりました。イエス様の口の感覚となったからです。また、口の感覚が変えられると聖書も蜂蜜のように美味しくなります。聖霊の感覚によって、礼拝へ向かう足首となり、祈る膝となり、腰は力となります。聖霊の感覚が泳げるほどに開かれていくと、私の祖母のように亡くなる間際に自分を迎えに来られたイエス様を見ることもあるのです。

第三番目、臨在の喜びを求めることです。霊の感覚が深くなっていくためには主の臨在を祈り求めることが大切です(詩篇 27:4)。しかし、御言葉通りに求めなければいけません。ヨガや座禅など、この世的な方法で求めるなら悪霊に触れられてしまいます。ダビデが主の契約の箱を迎え入れる時、ウザは神の箱に手を伸ばしたため打たれて死にました(IIサムエル 6章)。そこでオベデエドムの家に神の箱を安置した結果、彼の家は大いに祝福されました。それを聞いたダビデは今度は御言葉通りケハテ族に神の箱を運ばせ、ついに神の箱を迎え入れることができました。この時ダビデは主の御前で力の限り踊りました。ダビデの喜びは回復し、神様の前で自由を得、神様に集中することの祝福を与えられました。神様だけに集中して求める時、神様の御前にある喜びや楽しみが与えられ、安らかに住むことができるのです。どこでも臨在を求め、神様に集中する訓練(臨在の練習)が大切です。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」(ヘブル 12:2) アーメン！